

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3072100559
法人名	社会福祉法人 紀成福祉会
事業所名	グループホームサニーワン
所在地	和歌山県日高郡日高川町初湯川213-1 (電話) 0738-57-7070

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成22年3月8日	評価確定日	平成22年3月24日

【情報提供票より】(22年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤	14人, 非常勤 8人, 常勤換算 12.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	72 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大谷病院、国保日高総合病院、国立和歌山病院、歯科診療所
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの裏に広がる菜園や果樹園で地域のボランティアや職員と一緒に季節の果物、野菜などを育て収穫物は食卓をにぎわす。昔取った杵柄とはよく言ったもので鋤を握る姿は元気そのもので野菜の話などをすると表情が生き生きしてくる。地域交流もでき、利用者の活力を生み出し、さらに収穫物と一石三鳥の菜園である。また今年度インフルエンザがこの地域に猛威を振るい、残念な事に家族の面会も地域交流もまったく出来ずに終わった。しかし逆に考えると心を鬼にしてもリスクを回避するというホームの方針が利用者を守っているのかもしれない。入浴のお湯は一人ひとり入れ替えることもそれを裏付けるものであろう。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘のあった「運営推進会議」の開催頻度はまだ少ないものの3ヶ月に1回の開催となり、改善が見られた。災害対策において地域との協力関係にやや課題を残すも訓練としては毎月のようにいろいろなパターンで行っており評価できる。「運営に関する家族等意見の反映」については家族の意見を十分に引き出せていないと思われ改善の余地ありと検討項目として残すに至った。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回の自己評価について、ユニット会議等で話し合いを重ね、それを各管理者がまとめた。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は3ヶ月に1度、地区および家族の代表・民生委員・行政等が出席して行っており、行事や取り組みについての現状を報告する中、警察派出所駐在員も参加し安全面でのアドバイスをいただき運営に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	意見、不満、苦情があるときはいつでも気軽に申し出ただけのようにお願いしており、ご意見箱も設置している。あまり意見等は出されていないが出された意見等については運営に反映するよう努力している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	月1回、ホーム近くの清掃、草引きを行っている。地域の保育所、小・中・高校生とも慰問や園芸活動などの交流がある。昨夏、新型インフルエンザが地域で猛威を振るったためホームの夏祭りは中止になったが、今年度はさらなる連携強化のため、盛んな交流を目指している。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『自然豊かな地域の中で利用者が自分らしく生きること为目标に職員も家族の一員として、共に暮らす中で喜び、楽しみを見いだす生活を営む』という内容のホーム独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りで理念の確認を行い共有を進めている。職員はそれぞれ年間の目標をたて理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月1回の清掃、草引きを地域で行っている。保育所、小・中学生、高校生とも慰問や園芸活動などの交流がある。(昨夏のホームの夏祭りは新型インフルエンザが地域で猛威を振るったため中止になった)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をユニット会議等で行い、意見を出し合った。職員それぞれが、理念に基づいた年間目標を持ちながら改善に向け取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催回数は3ヶ月に1回とやや少ないが、民生委員、家族、行政等が参加しホームの状況や取り組み、行事の報告などを行っている。参加者より地域との交流等についての意見をいただき運営に活かしている。また派出所の警官も参加し、安全面でのアドバイスをいただくなど貴重な時間となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者には運営に関する質問や変更の事項に関して相談するなど、運営推進会議以外にも行き来し共に質の向上を目指して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回金銭報告や行事などお知らせする際、一人ひとりの様子を手紙にして同封している。健康状態については随時お知らせしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情があるときはいつでも気軽に申し出ただけようお願いします、またご家族にアンケートを実施しているも、あまり意見をいただけないが、いただいた意見は運営に反映するように努力している。	○	家族が集まるような場の設定等、意見を気軽に出しやすい環境作りに期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職が多いため、それに伴う異動や補充は避けられないものがあり困難を極めるが、異動した場合でも顔を見せられる環境を作っている。利用者への配慮を最優先にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設5年目で徐々に実践者研修の受講者を増やす計画であるが受講は年1~2名である。職員の内部研修も、勤務状態により参加が難しい。	○	職員の段階に応じて内外の研修参加を積極的に進めることが求められる。相互実習なども活用し伝達講習をすることで職員のさらなるモチベーションアップにつなげることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアネット和歌山(グループホーム連絡会)に加入しており、施設間の相互実習に参加、交流を進めることでサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始に当たり、見学して雰囲気を確かめていたり、また法人特養のショートステイを利用したりして徐々に馴染んでいけるよう家族等から情報を得ながら進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、園芸、菜園など一緒に出来る作業を通じ、信頼関係が築けるよう心掛けている。特に菜園では慣れた手つきで生き生きと作業され、野菜に関する知識や漬物、保存食などの作り方を教えていただいたりして学び、支え合う関係となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの思いや希望を日常接する中で感じ取るようにしている。お風呂の中や夜勤帯にはのんびりと話が出来、本音がでやすくコミュニケーションの場となっている。困難な場合は本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活の様子を観察し、センター方式を活用したり、また本人や家族からの聞き取りをしてケア会議などで介護計画の内容を検討している。医師や看護師等にも必要に応じて意見を求め、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しているが状況が変わればその都度の見直しを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして安心して過ごせるよう取り組んでいる。通常は家族にお願いしている受診の付き添いが状況により困難な場合には、職員が柔軟に対応している。必要時には併設特養からの職員が応援に回ってくれたり、緊急時にはリフト車による搬送もできる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医の受診や、またホームの嘱託医の受診など、本人や家族の希望により納得出来る医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重要事項説明書により看取りについての説明を行っている。重度化して医療ニーズが高くなった場合については早期に家族や医師とも話し合い、会議にかけて全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳の気持ちを忘れず、日々言葉遣いや態度にも注意している。ケース記録等の書類は鍵のかかる保管場所に保管している。またホーム内に掲示する写真も利用者、家族の了解を得た上で使用している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る範囲ではあるが、それぞれの意向を確認しながら、一人ひとりのペースに合わせて日常生活が送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛りつけや片づけ等出来るところを一緒に行っている。巻きずし、おはぎなど季節のものは皆でテーブルを囲んで作り、季節の料理を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望すれば毎日の入浴が可能で、お湯は一人ずつ入れ替えている。また入浴拒否のある方には様子観察をして、誘いかけるタイミングや言葉掛け等職員間で検討を重ねており、気持ちよくお風呂を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	漬け物や保存食の作り方などの工夫をうかがったり昔の食べ物についての思い出を聞かせていただいたりしていると顔つきが輝いてくる。それぞれが張り合いを持ち、その力が発揮できるよう毎日の家事仕事などに協力を求めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や併設施設との交流、買い物、お祭り見物や運動会への参加など日々の暮らしの中に取り入れるように支援している。今年は新型インフルエンザの流行もあり安全を第一に考え冬場の外出は控えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は本人に任せている。ホームの周辺環境は人気が少ない、近くには山林とダム湖があり、道に迷う危険性も高くユニットの玄関は電子ロックである。外出希望時は職員が必ず付き添うようにしている。	○	帰宅願望の強い方には、ホームの周囲が山林で危険とはいえ、鍵をかける事の弊害は大きいものがある。全日開放は無理にしても外出希望時はもとより、そわそわするような時は散歩に出るなどして外出の機会を多くして、鍵による閉塞感や不安を和らげる工夫が期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月のように防災、避難訓練を企画している。火災、地震、夜間等いろいろな想定のもと繰り返し訓練し、職員の意識と技術の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えたメニューの工夫と食事摂取量の記録を取り、健康管理に努めている。昼、夕の食事には必ず汁物を提供し、午前、午後、入浴後の水分補給、また夜間にも居室に水分を置くように支援している。本人の体調に合わせて刻み食、ミキサー食など形態の工夫もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような花や置物(お雛様)を飾ったり、手作りのカレンダーや保育所の子ども達からプレゼントされた色とりどりのひょうたんを掛け親しみのある空間にしている。さらに不快な音、光、臭い等に注意して、気持ちよく過ごせるように支援をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は馴染んだ物を家族にお願いしているものの持ち込みは少ない。しかし、転倒の危険がある人には床をマット敷きにししたり、好みで畳にししたりと本人と相談しながら一人ひとりに合わせ居心地よく過ごせるように支援している。		